

ふるさとの心

その9 市房の鴨



市房ダム 遠く市房山を望む。



自然の教訓

いっほうし しょういち
一法師 正一

めまぐるしく騒々しい都会での生活も六年経つ。こちらでの生活で感じる事は、人が困っていても見て見ぬ振りをし、隣りの住人に会っても挨拶もせず知らぬ振りをする、というような自分の事だけ考えている利己主義者が、意外と多いということである。自然の美しさ尊さを知らずに育ったから、万物に対する愛情がないのであろう。自然の意志を大切にしない人は、人生まで歪むのではないだろうか。自然のままではいいとは言えないが、自然の意志を無視しては人生はなく、喜怒哀楽のない事務的な人間になってしまう。自然が私達に与えた感じを最大に生かす処に人生の面白味があると思う。私は人間形成の上で重要な学生時代を、大自然の熊本で、学び遊ぶ事が出来たのを深く感謝している。友人が九州を旅行して私に言う事は、熊本は火の国らしく親切で温厚な人が多く、人情が感じられたという。私もついうれしくなって友人に言った。熊本人に十の誠意を持ってゆけば、十の誠意で受け取ってくれる。逆に人に十の誠意を要求するものは、また十の誠意を持っていくべきであると。打てばひびく人たちである事を私は誇りに思うのである。最近私は旅と読書が好きになると。乾いた喉は、水をほしがるといような事を本で知ったが、騒々しい生活に追われていると、必然的に心に潤いがなくなる。そこで目的のない旅に出て自然と接してくる。

熊本という良き国で生まれ、良き指導者、友人等に恵まれた事を誇りとし、山河自然の教訓を、これからの仕事に生活に生かしていきたいと思う。

昭和四十三年三月 鹿本高等学校卒業
勤務先 京浜急行電鉄株式会社
電車事業部、新町電区